

# 綾道

あやんつ

宮古島市  
宮古  
・新里コース

宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道・宮古・新里コース





# 綾道

あやんつ

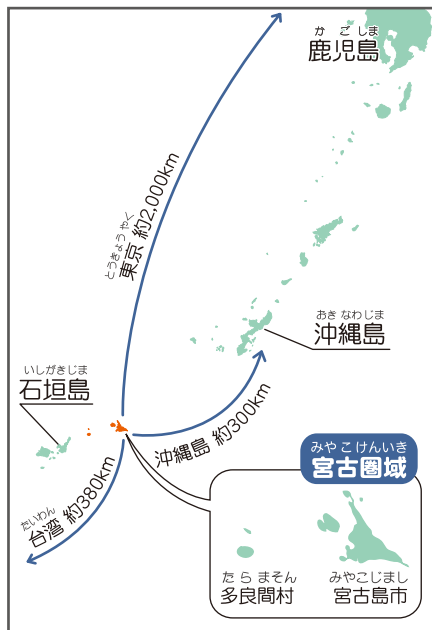
おもむき みち みやこ  
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

みやこしまし いちめんせき  
宮古島の位置と面積

みやこしまし だいしょうしま みやこしま  
宮古島市は大小6つの島(宮古島、  
いけまじま おおがみじま くりまじま いらぶじま しも  
池間島、大神島、来間島、伊良部島、下  
じしま こうせい  
地島)で構成されています。

そうめんせき へいほう  
総面積は204平方キロメートル、人  
こうやくまん たいぶぶん  
口約5万6,000人で、人口の大部分は  
ひららちく しゅうちゅう  
平良地区に集中しています。

しまぜんたい へいたん さんかくぶ おお  
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大き  
かせん せいかつようすい  
な河川もなく、生活用水などのほとん  
ちかすい たよ  
どを地下水に頼っています。



れきしぶんか  
宮古島市 neo 歴史文化ロード

あやんつ みやぐに しんざと  
綾道 (宮国・新里コース)



宮古島の位置と面積	02
もくじ	03
さんざく 散策 map	04
じょうせき ししていしせき テマカ城跡 市指定史跡	06
みやぐに おおつなひ ししていむ けいみんぞくぶんかざい 宮国の大綱引き 市指定無形民俗文化財	07
がー ししていしせき アマ井 市指定史跡	08
うがー 「降り井」はどうやってできたの? / 『雍正日記』って?	09
こうじん うたき ししていしせき 好善ミガガマ御嶽 市指定史跡	10
たまぐすくふも こぜ はなし 「玉城普門好善の話」	09
こうじん うたき しょくぶつぐんらく ししていてんねんきねんぶつ しょくぶつ 好善ミガガマ御嶽の植物群落 市指定天然記念物 (植物)	11
がー ししていしせき アナ井 市指定史跡	12
れきしひ かくねんびょう ぶち歴史比較年表	13
しょうせんそうなんの ろひ ししていしせき ドイツ商船遭難之地碑 市指定史跡	14
せんちょう こうかいにつき エドワルド・ヘルンツハイム船長の航海日記	15
うたき ししていゆうけいみんぞくぶんかざい スカプヤー御嶽 市指定有形民俗文化財	16
りゅうぐうでんせつ 宮古島の龍宮伝説	17
がー ししていゆうけいみんぞくぶんかざい キャーザ井 市指定有形民俗文化財	18
もとじま さまざま せつ わこう 元島と、様々な説 / 「倭寇」ってなあに?	19
しんざと ほうねんさい ししていむ けいみんぞくぶんかざい 新里の豊年祭 市指定無形民俗文化財	20
ししていてんねんきねんぶつ どうぶつ ツマグロゼミ 市指定天然記念物 (動物)	21
うらに しゅううたき ししていしせき 御船の親御嶽 市指定史跡	22
うらに しゅううたき ゆらい うらに しゅう つま はなし 御船の親御嶽の由来 / 御船の親の妻ブナコイの話	23
ぶんかざい たいけいず 文化財の体系図	24
ぶんかざい いろれい それぞれの文化財の一例	25





ツマグロゼミ P21

300m

190

しんざと  
新里

ひら ちやうこうこう  
←平良・宮古空港へ

じょうせき  
テマカ城跡 P06

しんざと ほうねんさい  
新里の豊年祭 P20

うらに しゅうう たき  
御船の親御嶽 P22

みやくに おあつな ひ  
宮国の大綱引き P07

しんざと ほうねんさい  
新里の豊年祭

ガー  
キャーザ井 P18

ぜんちやうやく  
コース全長約7km  
しやうじかん くるま じかん  
所要時間: 車で2時間  
※地点ごとの距離はおおよそです

こうじん うたき  
好善ミガガマ御嶽

しよくづくんらく  
の植物群落 P11

こうじん うたき  
好善ミガガマ御嶽 P10

うたき  
スカブヤー御嶽 P16

ガー  
アナ井 P12

950m

1km

235

1.7km

うえの ぶんかむら  
ドイツ文化村

はくあい ぎやうこう  
博愛漁港

235

650m

200m

ガー  
アマ井 P08

しやうせんそう なんのちひ  
ドイツ商船遭難之地碑 P14

みやくに おあつな ひ  
宮国の大綱引き

ひがし へんざ ぎまき  
→東平安名崎へ





じょう せき  
**テマカ城跡**



城辺字保良の東平安名崎から豊見親が石を投げて一夜のうちに石垣が築かれたという伝承があります。大正の頃まで高さ6~7尺(1.8~2.1m)もの石垣が存在したと言われますが、戦後の土木工事の材料としてほとんど持ち去られてしまいました。中の御嶽の祭神は、ヤマトガムキリウヌスと呼ばれており、久場嘉按司とたびたび合戦するも、力及ばず敗死したという伝えもあります。上野の人々は「テマカマキ」と呼んでいますが、牧場のマキであるのか、一定範囲を意味したマキであるのかは明らかではありません。郷土史家の稲村賢敷氏が「倭寇」の隠家らしいといった説を発表し、以後テマカ城跡の名で知られています。



みや くに おお つな ひ  
**宮国の大綱引き**



宮国集落の旧盆の行事のひとつですが、起源は不明です。農作物の収穫を祝い祈願する御願綱として、また疫病が流行すると災厄を追い払うために、時には旱魃が続くと雨乞いのために、あるいは農作物の豊凶を占うなどといった意味があると伝えられています。宮国の大綱引きの特徴は、他地域の綱引きにはない強い団結力を元にした勇壮さにあり、躍動感に溢れ、祖先のたくましい生活力を伝える上で貴重な無形民俗文化財です。また、宮国のクイチャーは、女性の歌の時には男性が踊り、男性の歌の時には女性が踊るといった特徴をもち、歌詞と踊りも、当時の風俗や習慣を知る貴重な民俗芸能です。



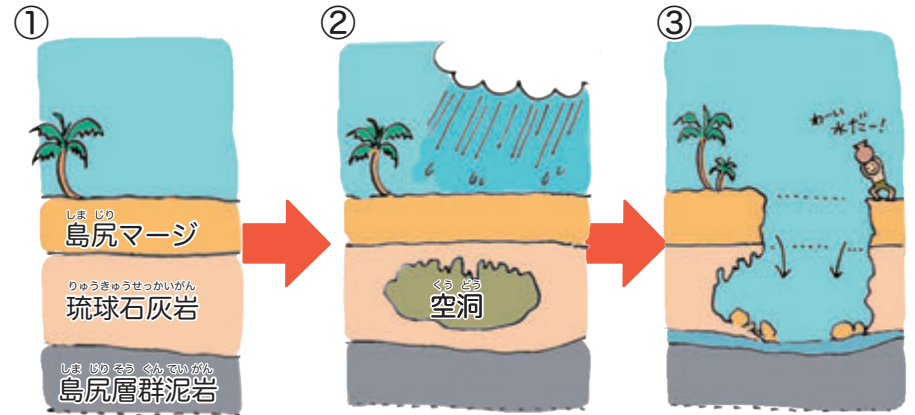
# アマ井



『雍正旧記(1727)』には“あま井、洞井であって掘年数不明”と記されており、東のアナ井とともに、宮国住民の貴重な水資源となっていました。1956年から1962年頃まで、ポンプを使用して旧上野村内に簡易水道として給水し、村民の生活向上に大きな役割をはたしていました。



## 「降り井」はどうやってできたの？



宮古島の地質は、島尻マーシ、琉球石灰岩、島尻層群泥岩でできています。

水に溶けやすい琉球石灰岩が雨水などで浸食され、地中に空洞ができます。

浸食が進み、やがて地表が崩れ、陥没ドリーネという窪地ができます。一番下の泥岩層はほとんど水を通さないため、水がたまります。

## 『雍正旧記』って？

『雍正旧記(1727)』は、宮古島で最も古いと言われている文献「宮古旧記類」のひとつです。この旧記類は他に、『御嶽由来記(1705)』『宮古島記事(1752)』『宮古島記事仕次(1748)』『宮古島在番記(1780)』などが知られています。特に、『御嶽由来記』『雍正旧記』

『宮古島記事』は、琉球王府の歴史書を編集する事業の資料として報告されたもので、主な内容は、宮古島の各御嶽名・祭神とその由来、各村番所の所在地、井川の名義・掘削年、島の産物、歌謡などについて記されています。



# 好善ミガガマ御嶽



この御嶽は宮国集落全体の御嶽です。『宮古島記事仕次』にこの御嶽の祭神好善ミガガマについて「久場嘉按司の女子普門好善が事」と題する記事があります。

上野では「コージンミガガマ」と呼ばれ、ミガガマ御嶽はミガガマの屋敷跡だと伝えられています。

## 玉城普門好善の話

昔、普門好善という美しい娘がおり、玉城という琉球の商人との間に男の子を授かりました。仕事で数年間八重山に渡っていた玉城がようやく島に戻り、妻と子の待つ家を覗くと、夜泣きをする子をあやす彼女の姿が見えました。そのとき、泣き止まぬ子にむかって、「流浪人の子がなぜ夜泣きをするのか」と普門好善が叱りつけたのです。これを聞いた玉城は「私は公用で旅をしているのに、流浪人とは何事か！」と怒り、子どもを奪い取ってそのまま琉球に戻ってしまいました。普門好善がこのできごとを嘆き恨んでいたとき、大津波が押し寄せ、海岸端の村々もろともに押し流してしまいました。普門好善の遺骸は川満村の東方に葬られたと伝えられています。



# 好善ミガガマ御嶽の植物群落



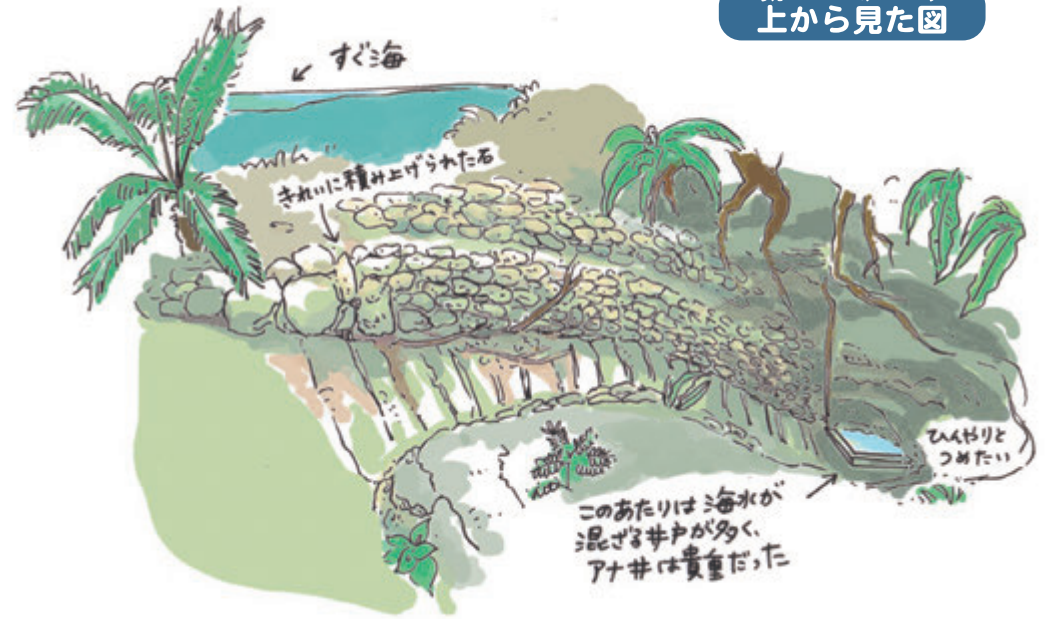
好善ミガガマ御嶽を包み込む植物群落で、御嶽林であるために長い間開発などから保護されており、宮古島南岸地域の自然植物を見ることができます。植物群落のほぼ中央部に拝所があり、拝所の周囲には胸高直径60~80cmの台湾エノキ、40cmのクロヨナが生育し、この自然植生を取り囲むようにヤンバルアカメガシワやオオバギなどの二次林が成立しています。拝所への参道沿いは下草刈りがときどき行われていますが、自然植生へ移り変わる潜在力を秘めており、御嶽中央部の台湾エノキ林と共に、地域の自然環境を知る手がかりとなっています。

がー  
アナ井



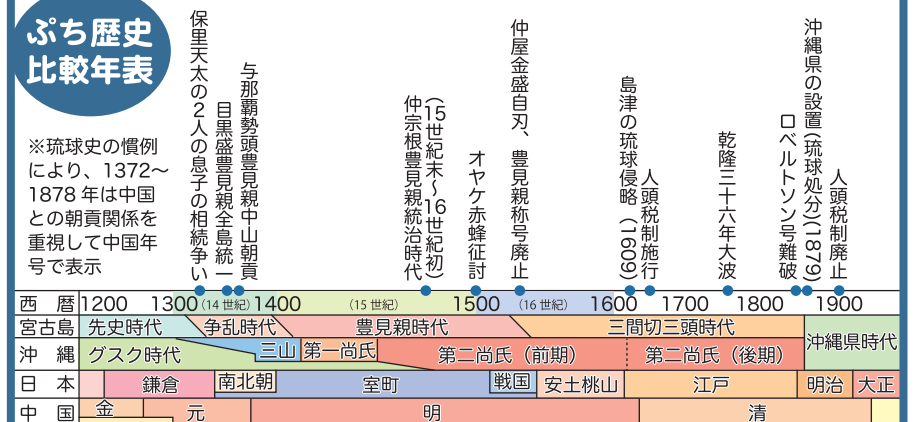
『<sup>ようせいきゅうき</sup>雍正旧記(1727年)』に、“<sup>しる</sup>東川、洞川だが掘削年数は不明”と記されています。

宮国村の番所跡の東に位置しているので、<sup>とうじやくにん</sup>当時は役人たちによって「<sup>アガスガー</sup>東井」と呼ばれていたようです。<sup>すいどう</sup>水道が普及するまでは、宮国住民の生活を支える貴重<sup>じゅうみんせいかつささきちよう</sup>な水資源で、<sup>みずしげんひるよる</sup>昼も夜も、ひっきりなしに人が集まり、<sup>ひとあつみずくせんたくあ</sup>水汲みや洗濯、水浴びなどでにぎわっていました。



ぶち歴史  
比較年表

※琉球史の慣例により、1372～1878年は中国との朝貢関係を重視して中国年号で表示



せい  
世紀って?

